

西東京市縁の方

児童文学作家

安房 直子さん

来歴

(1943年 - 1993年) 東京生まれ 東京女子大学国文科卒業
1971年『さんしょっ子』で日本児童文学者協会新人賞を受賞したのを皮切りに、数々の賞を受賞し、国語の教科書にも作品が収録されている。
精力的に執筆活動に励んでいたが、1993年逝去。享年50歳。
独特の世界観が高く評価され、没後も多くの作品が刊行されている。

どうして西東京市と縁なの？

西東京市（旧保谷市）にお住まいで、保谷駅近くにあった下保谷図書館（2008年5月閉館）にも来館されていました。
2010年頃、安房直子さんの世界を語り継ぐ「花豆の会」（現「安房直子記念～ライラック通りの会」）から未発表作品を含む100冊ほどの作品や資料を＜花豆文庫＞として、中央図書館に寄贈していただきました。

担当オススメ本

『きつねの窓』（ポプラ社 2005年 ISBN：4591088812）

教科書にも掲載されている代表作。猟師が子ぎつねを追って辿り着いたそめもの屋、言われたとおりに桔梗の花で指先を青く染め、小さな窓を作ってみると…思わず真似したくなる不思議さと、大切なことを考えさせられるお話でもあります。

『うさぎのくれたバレエシューズ』（小峰書店 1989年 ISBN：4338069112）

バレエが上手になりたい女の子のもとに届いた一足のバレエシューズ。その靴を履いて山の中の靴屋で出会ったのはうさぎの靴屋さんでした。幼い頃に想像したような素敵な世界が広がっている一作です。